北海道遠征山スキー2019 年 GW(白銀荘泊十勝岳周辺)

【山域】北海道十勝岳

【日程】2019年4月30日~5月6日 (行動日5/1~5/5)

【メンバー】菊池・チーム福島8名(CL:KW さん)

【行程】

4/30 八戸-5/1 (曇り)

苫小牧─吹上温泉・白銀荘(1017m)─三段山の二段(標高 1350 m 付近まで)─往 路を滑走─白銀荘

5/2 (終日雨、夜は雪)

観光:白金温泉白髭の滝・青い池・川村カ子トアイヌ記念館・旭川市立博物館・新栄 の丘展望公園・前田真三写真ギャラリー(拓真館)

5/3(10~20cm の新雪・曇りガスで終日視界不良)

朝食前:白銀荘―三姉妹(1280m 位) - 往路を新雪滑走―白銀荘 朝食後:白銀荘―ナマコ尾根(1420m 位) - 往路を滑走―白銀荘

5/4 (終日快晴)

望岳台駐車場(938m)—十勝岳避難小屋(1330m)-十勝岳山頂(2077m)—往路 を滑走—望岳台—白銀荘

5/5 (晴れ)

朝食前:白銀荘―三段山の二段(標高 1360m 付近まで) - 往路を滑走―白銀荘―苫 小牧東港―5/6 秋田―新潟―郡山―帰葉



・4/30~5/6、チーム福島の計画に同行させていただき、吹上温泉・白銀荘泊で十勝岳周辺の山スキーに行ってきた。前半の天気は悪く、5/1 令和初日、昼過ぎに宿に到着後、三段山ルートの三姉妹上の二段まで標高差 300m 余りハイクアップした。山スキーでの白銀荘泊は3回目、今までの厳冬期パウダーツアーの時期には外国人の方が多いが、この時期には殆どいません。宿は GW で宿泊客は多いが、山スキーを楽しむお客さんも少なく山は静かです。GW 初滑りは湿雪でストップスノー気味でした。





・2 日は朝から雨模様で観光となりました。まずは白金温泉の白ひげの滝です。続いて「青い池」です。雨にもかかわらず続々と観光客が訪れていました。最近人気のスポットで、駐車場拡充、売店などの建物を建設中でした。





旭川まで足を延ばし「川村カ子トアイヌ記念館」です。その後は旭川市立博物館を見学、美瑛に戻って、美瑛の丘の向こうに十勝・富良野の山々が見えるはずの「新栄の丘展望公園」に行きましたが、悪天で視界不良でした。最後は前田真三写真ギャラリー「拓真館」を無料で見学、フォトカードを購入、



おまけにカレンダーを頂き大感激でした。白銀荘に帰る頃には降雪模様となり、温かい温泉を楽しみ早々と夕食大宴会となりました。





・翌朝(3日)は宿の周辺は10cm程の新雪でリセットされていました。前夜の宴会で京都 クロスカントリー倶楽部の皆さんとテレマーク談義に盛り上がり。令和初パウダーを楽 しむべく、小生の提案で朝飯前の一滑りに、4;30ガスで視界不良の中スタートしました。 メンバーはわがP3名、京都組2名の計5名(テレマーク4名)です。一段目のシラビソ 林は20cm以上の降雪があり、やや軽くなってきてパウダー滑走が期待できそう。





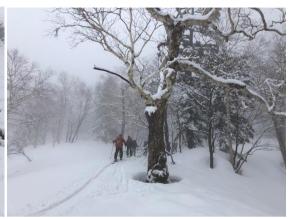
三姉妹で記念撮影し、いよいよ滑走開始です。 前半はまあまあのパウダー**ランを楽しめま**したが、後半は湿雪で重く、甘辛の新雪滑走でした。





・朝食後、前十勝に向かってスタート、雪が止み天気回復を祈ったが、ガスが立ち込め視界 不良は改善されない。残雪量が少なく前十勝方向へのルートは渡渉が無理で断念し、昨年 経験したナマコ尾根に向かった。ナマコ尾根ルートの下部は沢が交錯してルーファイが 難しい。





左の尾根に移行するところを直進したため細尾根が出てきて、ナマコ尾根右の谷筋を進むこととなった。何とかナマコ尾根に乗り上げることができ、ハイ松が露出した昨年と同じ地点(1420m 位)をエントリーポイントとした。





パック気味の湿新雪のため、横ズレしにくい雪質です。視界不良の続き、往路をそのまま





辿って下りました。 終盤の中斜面〜緩斜面は湿雪ですが、横ズレしやすくなってきてテレターンを楽しめました。1 日〜3 日は悪天模様で十分山スキーを楽しむというわけにはいきませんでした。

・4日は待ちに待った絶好のツアー日和となった。 望岳台からスタート、テンションアップのチーム福島メンバーです。この雄大な景色をほ



しいままにして隊列組んで避難小屋に向かいます。避難小屋近くにきました。最後尾から 噴煙を撮影しながら進んだ。





避難小屋で小休憩、上部は傾斜が増した斜面に先行 P とトレースが見えます。雪面がや や硬くなった急斜面でのシール登高になると皆さん、やや苦労しています。小生はクトー を装着しましたが、やはり楽ですね。





1650m 地点で広大な平坦地に到達、休憩後しばら先行ルートを辿り進みます。この広大な平坦地は十勝岳のいくつかの火口に囲まれたエリアで右上方から噴煙がたなびき、十勝岳山頂方向は霞んでいます。真っすぐ前方の急斜面は上方から雪が繋がっており、トレースはその方向に続いていますが、滑走時に選択することとして左方向に進路を変えて進みました。





前十勝方向に目をやると噴煙の硫黄成分で変色した黄色の雪面が見られます。左側の台地に乗り上げる手前で雪が繋がっておらず 20m ほどツボ足で進み、いよいよ山頂に向かっての登りとなります。夏道ルートは急なため、山スキーでは左方向から迂回して山頂に向かいます。噴煙の硫黄成分で黄色に変色したこんなオブジェの脇を通過しました。雪面は適度に緩んでおり





山頂までシール登高できました。狭い山頂はこんな感じです。360度の大パノラマが楽し

めました。小生にとって3回目の十勝岳登頂です。過去2回は何れもホワイトアウトの中でした。1回目は百名山を目指していた1997

年と、1昨年美瑛山から縦走し、雨とホワイトアウトで難儀した夏山登山でした。今回初めて絶好の日和に恵まれての登頂に大感動です。大雪の山々やトムラ

ウシをバックに記念撮影していただきました。一生の思い出になるショットですね!!

今回チーム福島の方々の計画に同行させていただき、感謝々々の記念撮影をしていよい よスタートです。初めは登ってきた斜面を滑走、滑りやすいザラメに早くも雄叫びが上が ります。このグレイトビューを見ながらの素晴らしい滑走が始まりました。





山頂下のシュカブラ急斜面を左側にトラバースして黄色の急な大斜面の豪快な滑走が始まりました。急な大斜面の滑走、快適なのは滑り始めだけ、湿雪のためかスピードに乗れない。気持ちは前に行くがつんのめるように不覚の転倒を喫してしまった。





登りで確認していた雪が繋がっている急斜面から平坦地に滑り込んだが、全く板が走ら



ない。ストップス ノーかと思ってい たが休憩時にビッ クリポンです。 な、 なんと。ソールに 黄色の汚れがべっ たり付着している ではないか。山頂 でワックスを塗ったメンバーのみがこのようなお手上げ状態であった。スティパーでそぎ落として何とか滑るようになったが、これが原因で急に板が滑らなくなったのだ。初体験で勉強になりました。台地から避難小屋に向かう中急斜面、2日前の降雪が重い湿雪に変化し、横ズレしにくく、ややコントロールしにくい。板をしっかり踏んでのテレターンでシュプールを刻んだ。





避難小屋から下部は延々と続く緩斜面です。ターンしにくい湿雪にアルペン滑りでリズミカルにショートターンを楽しんだ。素晴らしい一日の余韻に浸りながらノートラエリアを選び、最後の最後までアルペンショートターンを楽しみました。





・北海道遠征最終日の5日も好天、朝食前に 三段山の二段までショートツアーを楽し んだ。ガリガリ斜面の三姉妹を通過。前日 までのトレースを辿り急斜面をトラバー スしながら登っていくルートでは、シール のみでは上がれないメンバーもいて、斜度 の緩いルートに変更して何とかクリアー した。クトーを使用したメンバーは楽であ



った。二段目の緩斜面は気持ちよく進みます。右方に目を向けると富良野岳の雄姿が飛び 込んできました。









左にナマコ尾根と前十勝の噴煙を望みながら、標高 1350m位までハイクアップ、朝の冷気でまだ緩まない斜面を慎重に滑走した。

・最後の温泉を楽しみ遅い朝食後、苫小牧に向け出発、4日間楽しんだ十勝連峰を車窓から 楽しんだ。富良野の町では、昨年の夏に登頂した芦別岳の格好良い雄姿を車窓から撮影で きた。





・GW のフェリー予約は大変である。往路は八戸から出発、帰りは苫小牧東港から新日本フ

ェリーで秋田経由新潟行きに乗船した。秋田港で逆ルートのご豪華フェリーを写真に収めることができた。20時間の豪華フェリー(18000トン余り)による船旅はゆったり気分で楽しめます。終始穏やかな海上で、夜明けの東北の山々、残雪の鳥海山、月山などを眺めながら楽しかった北海道山スキーの余韻に浸りました。





また偶然の出会いも用意されていました。 3年前の同時期、利尻山山スキーでお会い した AK 夫妻に乗船直後お会いし談笑で きました。なんと彼らは旭岳~トムラウシ まで山スキー縦走したとのことです。素晴 らしい体力ですね!!わが故郷新潟港に 入港、郡山を経由して帰葉しました。



チーム福島の皆様ありがとうございました。

